

Oracle® Collaboration Suite

クイック・インストレーション・ガイド

リリース 2 (9.0.4.1.1) for Windows

部品番号 : B13731-01

2004 年 3 月

Oracle Collaboration Suite クイック・インストール・ガイド, リリース 2 (9.0.4.1.1)
for Windows

部品番号 : B13731-01

原本名 : Oracle Collaboration Suite Quick Installation Guide, Release 2 (9.0.4.1.1) for Windows

原本部品番号 : B12298-01

Copyright © 2002, 2003 Oracle Corporation. All rights reserved.

制限付権利の説明

このプログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）には、オラクル社およびその関連会社に所有権のある情報が含まれています。このプログラムの使用または開示は、オラクル社およびその関連会社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権と工業所有権に関する法律により保護されています。

独立して作成された他のソフトウェアとの互換性を得るために必要な場合、もしくは法律によって規定される場合を除き、このプログラムのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更される場合があります。オラクル社およびその関連会社は、このドキュメントに誤りが無いことの保証は致し兼ねます。これらのプログラムのライセンス契約で許諾されている場合を除き、プログラムを形式、手段（電子的または機械的）、目的に関係なく、複製または転用することはできません。

このプログラムが米国政府機関、もしくは米国政府機関に代わってこのプログラムをライセンスまたは使用する者に提供される場合は、次の注意が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation, and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the Programs, including documentation and technical data, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement, and, to the extent applicable, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software--Restricted Rights (June 1987). Oracle Corporation, 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このプログラムは、核、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションへの用途を目的としておりません。このプログラムをかかえる目的で使用する際、上述のアプリケーションを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（**redundancy**）、その他の対策を講じることが使用者の責任となります。万一かかるプログラムの使用に起因して損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

Oracle は Oracle Corporation およびその関連会社の登録商標です。その他の名称は、Oracle Corporation または各社が所有する商標または登録商標です。

目次

はじめに	iii
1 前提条件の確認	
2 Oracle9/AS Infrastructure のインストール	
3 Oracle Collaboration Suite Information Storage のインストール	
4 Oracle Collaboration Suite Middle-Tier のインストール	
Oracle Email のインストール	4-8
Oracle Collaboration Suite 統合 Web Client のインストール	4-10
コマンドラインを使用した Web Client のインストーラの起動	4-11
コンポーネントの URL の構成	4-11
Web Client のコマンドライン・インストーラの実行	4-11

はじめに

このマニュアルでは、最も一般的な構成シナリオを使用して、Oracle Collaboration Suite の基本的なインストール方法について説明します。

関連資料： インストールおよび構成に関する詳細は、『Oracle Collaboration Suite インストレーションおよび構成ガイド for Windows』を参照してください。

このマニュアルでは、Oracle9iAS Infrastructure、Oracle Collaboration Suite Information Storage および Oracle Collaboration Suite Middle-Tier が別のコンピュータにインストールされることを前提としています。

このマニュアルの構成は次のとおりです。

- [前提条件の確認](#)
- [Oracle9iAS Infrastructure のインストール](#)
- [Oracle Collaboration Suite Information Storage のインストール](#)
- [Oracle Collaboration Suite Middle-Tier のインストール](#)

前提条件の確認

インストールを開始する前に次の前提条件が満たされていることを確認してください。

- 最低限のハードウェア要件
- 必須となるオペレーティング・システムのバージョン
- 環境についてのインストール前タスク

関連資料： インストール前タスクの手順と要件、および前提条件確認のリストについては、『Oracle Collaboration Suite インストールガイド for Windows』を参照してください。

Oracle9iAS Infrastructure のインストール

この章では、Oracle9iAS Infrastructure のインストール方法について説明します。

注意： 業界標準の LDAP ポートは、非 SSL の場合は 389、SSL の場合は 636 です。これらのポートが %WINDIR%\system32\drivers\etc\services ファイルにリストされていない場合、Oracle Universal Installer により Oracle Internet Directory ポートとして使用されます。これらのポートが %WINDIR%\system32\drivers\etc\services ファイルにリストされている場合、Oracle Universal Installer ではポート 4031 ～ 4039 を連続して Oracle Internet Directory ポートとして試行します。

標準のポート 389 または 636 を使用するには、構成を開始する前に %WINDIR%\system32\drivers\etc\services ファイルからこれらのポート番号を含む行を削除する必要があります。これらの行をコメント・アウトするだけでは十分ではありません。削除する必要があります。

現在ポート 389 または 636 で LDAP サーバーが稼働している場合、構成する前にサーバーを停止してください。

Oracle9iAS Infrastructure をインストールするには、次のようにします。

1. 最初の Oracle9iAS Infrastructure Release 2 (9.0.2.3.0) for Microsoft Windows (32-bit) CD-ROM を挿入します。

自動実行ウィンドウが自動的に表示されます。自動実行ウィンドウが表示されない場合は、次のようにします。

- a. 「スタート」 → 「ファイル名を指定して実行」 を選択します。
- b. 次のように入力します。

`DRIVE_LETTER:\autorun\autorun.exe`

2. Oracle Universal Installer の「ようこそ」ウィンドウが表示されます。

3. 「次へ」をクリックすると、「ファイルの場所」画面が表示されます。

Oracle Collaboration Suite Information Storage をクラスタにインストールした場合、「クラスタ・ノードの選択」画面が表示されます。Oracle ソフトウェアをインストールするノードを選択します。Real Application Clusters ソフトウェアは、Oracle Universal Installer が実行されているノードにインストールされ、クラスタ内の選択した他のノードにコピーされます。デフォルトでは、常にローカル・ノードが選択されます。

4. 「ファイルの場所」画面では、次のことを行います。

- 「ソース」セクションで、デフォルトのパスを受け入れます。
- 「インストール先」セクションで、Oracle ホームの「名前」および完全な「パス」を入力します。

5. 「次へ」をクリックすると、「言語の選択」画面が表示されます。

6. Oracle Collaboration Suite でサポートされている言語のリストから、使用する言語を選択します。「次へ」をクリックすると、「インストールの要件確認」画面が表示されます。

注意：

- ここで選択した言語により、ユーザーはインストールした Oracle Collaboration Suite に母国語でアクセスできます。ただし、その言語が Oracle Collaboration Suite でサポートされていることが条件になります。
 - サポートする言語は、インストールの完了後は追加できません。その他の言語を追加するには、Oracle Collaboration Suite を完全に再インストールする必要があります。
-

7. 「次へ」をクリックすると、「構成オプションの選択」画面が表示されます。

8. 「デフォルト」を選択し、「次へ」をクリックすると、「インスタンス名および ias_admin パスワードの作成」画面が表示されます。

-
9. 「インスタンス名」を選択し、「ias_admin パスワード」を選択および確認します。

注意：

- 「インスタンス名」はデータベース・インスタンス名ではなく、Oracle9iAS Infrastructure インスタンスの名前です。
 - ここで選択した「ias_admin パスワード」は、Oracle9iAS Infrastructure の Oracle Internet Directory 管理者用のパスワードにもなります。
-

「次へ」をクリックすると、「Guest アカウントのパスワード」画面が表示されます。

10. ゲスト・ユーザー・アカウントを入力および確認します。
11. 「次へ」をクリックすると、「サマリー」画面が表示されます。
12. 情報を確認し、「インストール」をクリックします。インストールのためのログ・ファイルの場所が表示されます。
- 「インストール」をクリックした後、ファイルはコピーおよびリンクされます。このプロセスの実行には1時間以上かかります。
13. 「インストールの終了」画面では、インストール用のポート番号が表示され、正常に終了したことが確認されます。
14. インストール・エラーがないか、インストール・ログ・ファイルを確認します。インストール・ログ・ファイルは、`SYSTEM_DRIVE:\Program Files\Oracle\Inventory\logs` にあります。

各インストール・ログの形式は、`InstallActionsYYYY-MM-DD_HH-MM-SSAM.log` のようになります。

注意：

- TEMP 環境変数で指定されたディレクトリでは、ディレクトリの形式は `OraInstallYYYY-MM-DD_HH-MM-SSAM.log` のようになります。`installCluster.log` ファイルには、どのインストール・モジュールが現在実行されているかが表示されます。
 - ポートのリストは、`%ORACLE_HOME%\install` ディレクトリの `portlist.ini` ファイルにあります。
-

Oracle Collaboration Suite Information Storage のインストール

この章では、Oracle Collaboration Suite Information Storage のインストール方法について説明します。

注意： Oracle Collaboration Suite Information Storage は、別個のコンピュータにインストールできます。このマニュアルでは、1 つの Oracle Collaboration Suite Information Storage が使用されていることを前提としています。

Oracle Collaboration Suite Information Storage をインストールするには、次のようにします。

1. 最初の Oracle Collaboration Suite Information Storage Release 2 (9.0.2.3.0) for Microsoft Windows (32-bit) CD-ROM を挿入します。

自動実行ウィンドウが自動的に表示されます。自動実行ウィンドウが表示されない場合は、次のようにします。

- a. 「スタート」→「ファイル名を指定して実行」を選択します。
- b. 次のように入力します。

`DRIVE_LETTER:¥autorun¥autorun.exe`

2. Oracle Universal Installer の「ようこそ」ウィンドウが表示されます。
3. 「次へ」をクリックすると、「ファイルの場所」画面が表示されます。
4. 「ファイルの場所」画面では、次のことを行います。
 - 「ソース」セクションで、デフォルトのパスを受け入れます。
 - 「インストール先」セクションで、Oracle ホームの「名前」および完全な「パス」を入力します。
5. 「次へ」をクリックすると、「言語の選択」画面が表示されます。
6. Oracle Collaboration Suite でサポートされている言語のリストから、使用する言語を選択します。「次へ」をクリックすると、「データベースの作成」画面が表示されます。
7. 「はい」を選択すると新規の Oracle9i データベースが作成され、「次へ」をクリックすると「Information Storage の登録」画面が表示されます。
8. 「はい」を選択すると Oracle Collaboration Suite Information Storage が Oracle Internet Directory に登録されます。「次へ」をクリックすると、「Oracle Internet Directory 情報」画面が表示されます。
9. 完全修飾された「ホスト」名、「ポート」、「ユーザー名」（Oracle Universal Installer ではデフォルトで cn=orcladmin が表示される）および「パスワード」を入力します。「次へ」をクリックすると、「データベースの識別」画面が表示されます。
10. 「グローバル・データベース名」および「SID」を入力します。必要な場合、デフォルトの SID を変更します。
11. 「次へ」をクリックすると、「データベース・ファイルの場所」画面が表示されます。
12. デフォルトを受け入れ、「次へ」をクリックすると、「サマリー」画面が表示されます。

-
13. 「インストール」をクリックして Oracle Collaboration Suite Information Storage のインストールを開始します。

インストールが開始され、進捗状況が表示されます。ファイルがコピーされた後、Oracle Collaboration Suite Information Storage の Oracle ホームが構成されます。

別の進捗状況画面で、Oracle Collaboration Suite Information Storage の Oracle ホームの構成および Oracle Collaboration Suite Information Storage データベース・インスタンスの作成を行う様々な Configuration Assistant の進捗状況が表示されます。

「Oracle Database Configuration Assistant」画面が表示されます。

14. Oracle Collaboration Suite Information Storage データベースの SYS および SYSTEM ユーザーに対して、新規パスワードを入力します。

15. 「パスワード管理」をクリックします。

使用しているコンピュータが最低限のインストール前要件を満たしていることを確認したら、画面のすべてのチェック・ボックスを選択します。

16. CTXSYS アカウントを検索し、「アカウントのロック」列のボックスをクリックしてロックを解除します。

17. 新規 CTXSYS パスワードを入力および確認します。

18. 「OK」をクリックすると、「インストールの要件確認」画面が表示されます。

19. 「次へ」をクリックすると、「インスタンス名および ias_admin パスワードの作成」画面が表示されます。

Information Storage のインストールが完了します。

Oracle Collaboration Suite Middle-Tier のインストール

この章では、すべてのコンポーネントがインストールされていることを前提とし、Oracle Collaboration Suite Middle-Tier のインストール方法について説明します。

注意： この章では、Oracle9iAS Infrastructure（Oracle Internet Directory、Oracle9iAS Single Sign-On および Oracle9iAS Metadata Repository）および Oracle Collaboration Suite Information Storage がすべてインストールされていることを前提とします。

関連資料： Oracle9iAS Infrastructure の配置に関する考慮事項は、『Oracle Collaboration Suite インストレーションおよび構成ガイド for Windows』を参照してください。

注意： Oracle9iAS Wireless には、インストール後に構成する必要がある組込みアプリケーションが含まれています。使用する前に、基礎となる Oracle9iAS Wireless スタック、次にそのアプリケーションを構成する必要があります。これらアプリケーションおよびその他の Oracle9iAS Wireless コンポーネントの構成の詳細は、『Oracle9iAS Wireless 管理者ガイド』を参照してください。

Oracle Collaboration Suite のアプリケーションは、中間層に置かれます。Oracle Collaboration Suite Middle-Tier のインストール・プロセス中、ほとんどのアプリケーションは自動的にインストールされます。いくつかのアプリケーションについては、正常にインストールするために入力が必要です。

この章では、Oracle Collaboration Suite Middle-Tier のインストールの開始方法について説明します。

1. 最初の Oracle Collaboration Suite Release 2 (9.0.4.1.1) for Microsoft Windows (32-bit) CD-ROM を挿入します。

自動実行ウィンドウが自動的に表示されます。自動実行ウィンドウが表示されない場合は、次のようにします。

- a. 「スタート」→「ファイル名を指定して実行」を選択します。
- b. 次のように入力します。

```
DRIVE_LETTER:\autorun\autorun.exe
```

2. Oracle Universal Installer の「ようこそ」ウィンドウが表示されます。
3. 「次へ」をクリックすると、「ファイルの場所」画面が表示されます。
4. 「ファイルの場所」画面では、次のことを行います。
 - 「ソース」セクションで、デフォルトのパスを受け入れます。
 - 「インストール先」セクションで、Oracle ホームの「名前」および完全な「パス」を入力します。
5. 「次へ」をクリックすると、「言語の選択」画面が表示されます。
6. Oracle Collaboration Suite でサポートされている言語のリストから、使用する言語を選択します。「次へ」をクリックすると、「インストールの要件確認」画面が表示されます。
7. インストール前の要件を確認し、「次へ」をクリックすると、「コンポーネントの構成」画面が表示されます。
8. インストールするコンポーネントを選択し、「次へ」をクリックします。Oracle Calendar Web Client、Sync Server および Web Services は、「Oracle Calendar アプリケーション・システム」を選択していない場合、インストールできないことに注意してください。Oracle Calendar は次の場所にインストールされます。

コンポーネント	場所
Server	%ORACLE_HOME%\ocal\
Administrator	%ORACLE_HOME%\ocad\
アプリケーション・システム	%ORACLE_HOME%\ocas\

注意：

Oracle Calendar Server のみをインストールするには、次のようにします。

1. 「Oracle Calendar アプリケーション・システム」のかわりに「Oracle Calendar Server」を選択します。
2. その結果、クライアントの**ホスト**および**ポート**が要求されます。値がわからない場合、一時値を入力し、後でサーバーの `unison.ini` ファイルを次のように編集することもできます。

```
[RESOURCE_APPROVAL]
url=http://host_name:port_number/ocas-bin/ocas.fcgi
```

Oracle Calendar アプリケーション・システムのみをインストールするには、次のようにします。

1. 「Oracle Calendar Server」のかわりに「Oracle Calendar アプリケーション・システム」を選択します。
2. その結果、Oracle Calendar Server の**ホスト**、**ポート**および**ノード ID**が要求されます。値がわからない場合、一時値を入力し、後でアプリケーション・システムの `ocas.conf` ファイルを次のように適切な値に編集することもできます。

```
[CONNECTION]
mode=host_name:engine_port,node
```

-
-
9. 「次へ」をクリックすると、「既存の Oracle9iAS Single Sign-On」画面が表示されます。
 10. Oracle9iAS Single Sign-On の既存のインスタンスのホスト名およびポート番号を入力し、「次へ」をクリックすると、「Oracle Internet Directory」画面が表示されます。
 11. Oracle Internet Directory の既存のインスタンスの管理者のユーザー名およびパスワードを入力し、「次へ」をクリックすると、「管理パスワードおよびインスタンス名の指定」画面が表示されます。
 12. 「インスタンス名」を選択し、「管理用パスワード」を選択および確認します。

注意：

- 「インスタンス名」は、データベースのインスタンス名ではなく、Middle-Tier インスタンスのインストールのための名前です。
 - ここで選択した「管理用パスワード」は、Middle-Tier 用の Oracle Internet Directory 管理者のパスワードにもなります。
-
-

Oracle Web Conferencing のインストール

13. 「次へ」をクリックすると、「Oracle Real-Time Collaboration リポジトリの位置」画面が表示されます。すべてのフィールドに必要な情報を入力してください。
14. 「次へ」をクリックすると、「Oracle Real-Time Collaboration リポジトリの詳細」画面が表示されます。使用しているデータベースによって、要求される情報は異なります。
 - Oracle Collaboration Suite Information Storage データベースを使用している場合、スキーマのパスワードをリセットしてください。
 - 既存のデータベースを使用している場合、必須パスワードを作成し、データファイルの位置を指定してください。
15. 情報を入力した後、「次へ」をクリックすると、「Oracle Calendar のデフォルトのタイムゾーン」画面が表示されます。

関連資料：『Oracle Web Conferencing 管理者ガイド』の第 5 章「構成」の「ポートおよびネットワークの接続性の構成」および「SSL の構成」を参照してください。

Oracle Calendar Server および Oracle Calendar アプリケーション・システムのインストール

16. 新しい Oracle Calendar ユーザーのデフォルトのタイムゾーンを選択します。「次へ」をクリックすると、「Oracle Calendar Services」画面が表示されます。
17. 「Oracle Calendar Services」画面が表示されます。指定したユーザーのパスワードを入力します。「次へ」をクリックします。
18. Oracle Email のインストールを選択していない場合、「Oracle Calendar メール通知」画面が表示されます。SMTP サーバーの完全修飾ドメイン名を入力します。「次へ」をクリックすると、「Oracle Calendar のノード ID」画面が表示されます。
19. Oracle Calendar のノードに 1 ～ 49999 の間の一意の数値 ID を指定します。「次へ」をクリックすると、「Oracle Calendar のマスター・ノード」画面が表示されます。
20. Oracle Calendar Server を初めてインストールする場合、「Oracle Calendar のマスター・ノード」画面で「はい」を選択し、現行のインストールをマスター・ノードにします。Web Services および Sync Server を機能させるには、ネットワークにマスター・ノードが 1 つ必要です。「次へ」をクリックすると、「サマリー」画面が表示されます。
21. インストールの設定を確認します。変更が必要な場合、「戻る」をクリックします。「次へ」をクリックすると、「インストール」画面が表示されます。

インストールの進捗状況が、この画面の進捗バーに表示されます。各コンポーネントの Configuration Assistant が自動的に起動します。Configuration Assistant の起動に失敗した場合、失敗の原因がウィンドウに表示されます。失敗の原因を修正し、「再試行」をクリックします。

Oracle Files の構成

中間層への Oracle Files のインストールを完了するには、次の手順を実行します。

注意： 構成プロセスには 1 時間以上かかります。

関連資料： 推奨される構成前タスクおよび必須の構成後タスクなどの詳細な Oracle Files 構成情報は、『Oracle Collaboration Suite インストレーションおよび構成ガイド for Windows』を参照してください。

22. Oracle Files Configuration Assistant の「ようこそ」画面で、「次へ」をクリックすると、「ドメイン操作」画面が表示されます。
23. 「新規 Oracle Files ドメインの作成」を選択し、「次へ」をクリックすると、「データベースの選択」画面が表示されます。
24. Oracle Collaboration Suite Information Storage の「データベース・ホスト名」、「リスナー・ポート番号」、「データベース・サービス名」および「データベース・ユーザー SYS のパスワード」を入力します。「次へ」をクリックします。「データベース・ログインの検証」ウィンドウが終了すると、「スキーマ名」画面が表示されます。
25. スキーマ名を入力し、ファイルのインストール用のパスワードを入力および確認して、「次へ」をクリックすると、「表領域」画面が表示されます。

Configuration Assistant によって、このスキーマ名がデータベースに存在するかどうかを確認されます。存在する場合、またはこのスキーマ名に基づく関連するスキーマ名が存在する場合、詳細な説明を求めるメッセージ・ボックスが表示されます。

「スキーマ名」画面に戻り、スキーマの新しい名前を入力するには、メッセージ・ボックスで「いいえ」をクリックします。

このスキーマおよびすべての関連オブジェクトをデータベースから削除し、新しいスキーマを作成するには、「はい」をクリックします。

注意： このスキーマおよびすべての関連オブジェクトをデータベースから削除し、新しいスキーマを作成する場合以外は、「はい」をクリックしないでください。

-
26. 次のいずれかのオプションを選択します。
- Oracle Files のコンテンツ用にカスタム表領域を作成していない場合、「すべての Oracle Files データに USERS 表領域を使用」を選択
 - Oracle Files のコンテンツ専用に表領域を作成した場合、「各データ・タイプの表領域を指定」を選択し、ドロップダウン・リストから各コンテンツ・タイプに使用する表領域を選択
- 「次へ」をクリックすると、「キャラクタ・セットおよび言語」画面が表示されます。
27. Oracle Files にドキュメントを格納する際に使用するデフォルトのキャラクタ・セットおよび索引付け言語を選択します。キャラクタ・セットは、Oracle Files ドメインのほとんどのユーザーが使用するキャラクタ・セットに設定することをお勧めします。「次へ」をクリックすると、「デフォルトのポート番号」画面が表示されます。
28. ポート番号を変更するか、デフォルトを受け入れ、「次へ」をクリックすると、「Web サイト情報」画面が表示されます。
29. 「HTTP ホスト名」および「HTTP ポート」を入力し、「SSL の使用」（コンピュータに SSL を構成した場合のみこのボックスを選択）します。「次へ」をクリックすると、「SMTP 情報」画面が表示されます。
30. 電子メール・サーバー情報を入力します。これは、有効な SMTP サーバー名である必要があります。「次へ」をクリックすると、「管理者情報」画面が表示されます。
31. 通知およびその他のメッセージを Oracle Files の site_admin ユーザーに送信するために使用する完全修飾された電子メール・アドレスを入力します。「次へ」をクリックすると、「ユーザー」画面が表示されます。
32. 各デフォルト・ユーザーにパスワードを割り当てます。site_admin ユーザーは、Oracle Files サブスクリバの作成、および構成後に必要です。「次へ」をクリックすると、「OiD ログイン」画面が表示されます。
33. 資格証明の管理に使用する、「サーバー」、「ポート」、「スーパー・ユーザー」、「スーパー・ユーザー・パスワード」および「ルート Oracle コンテキスト」などの Oracle Internet Directory インスタンスのログイン情報を入力します。「次へ」をクリックすると、「ローカル・マシンの設定」画面が表示されます。
34. 次のいずれかのオプションを選択します。
- Oracle Files スキーマを作成し、ドメイン・コントローラ、ノードまたは HTTP ノードを実行するためにこのホストを構成する場合、「はい」
 - このホストを構成せずに新しいスキーマを作成する場合、「いいえ」
- 「次へ」をクリックすると、「ドメインのコンポーネント」画面が表示されます。
35. Oracle Files に使用する完全修飾されたホスト名を入力し、「このコンピュータでドメイン・コントローラを実行」、およびドメインのために構成するその他すべてのプロセスを選択します。「次へ」をクリックすると、「ノード構成」画面が表示されます。

-
36. ノード名を入力し、プロトコル・サーバーおよびエージェントを必要に応じて構成します。「ノード名」は、ノードを識別する名前です。「**Oracle Files エージェントを実行**」により、すべての Oracle Files システム・エージェントがこのコンピュータ上で実行されるように構成されます。「**プロトコル・サーバーを実行**」により、Oracle Files プロトコル・サーバーがこのコンピュータ上で実行されるように構成されます。
 37. 「ドメインのコンポーネント」画面で「**このコンピュータで HTTP ノードを実行**」を選択した場合、「次へ」をクリックすると「HTTP ノードの設定」画面が表示されます。それ以外の場合、「次へ」をクリックすると、「サマリー」画面が表示されます。
 38. HTTP ノードの名前を入力します。「次へ」をクリックすると、「サマリー」画面が表示されます。
 39. 「**構成**」をクリックして続行します。プロセスが完了すると、Oracle Files の構成が正常に終了したことを示すメッセージが表示されます。「OK」をクリックしてメッセージを閉じます。

Middle-Tier のインストールの完了

40. Oracle Files Configuration Assistant の構成が完了すると、「Configuration Assistant」画面が表示されます。「次へ」をクリックすると、「インストールの終了」画面が表示されます。
41. 「インストールの終了」画面に表示された情報を書きとめておいてください。
42. 「**終了**」をクリックしてインストールを終了します。
43. 次のコマンドを使用して Oracle Enterprise Manager を再起動します。

```
%ORACLE_HOME%\bin\emctl stop  
%ORACLE_HOME%\bin\emctl start
```

Oracle Email のインストール

中間層への Oracle Email のインストールを完了するには、次の手順を実行します。

1. アプリケーション・サーバーにある umconfig.bat スクリプトを実行します。

```
%ORACLE_HOME%\oes\bin\umconfig.bat
```

「Unified Messaging の構成」画面が表示されます。
2. 「メール・ストアのデータベース構成」を選択します。
3. 「次へ」をクリックします。「メール・ストアのデータベース構成」画面が表示されます。
4. 対応するフィールドに次の情報を入力してください。

フィールド	説明
データベース・ホスト名	データベースが置かれているシステム名
SID	Email Store Information のシステム識別子
ポート番号	リスナーがリスニングするポート番号
SYSTEM パスワード	ホスト・データベースのシステム・パスワード

5. 「次へ」をクリックします。「CTXSYS パスワード」画面が表示されます。CTXSYS パスワードがロックされていて、リセットが必要な場合、パスワードを確認するよう要求されます。CTXSYS パスワードを入力してください。デフォルトのパスワードは CTXSYS です。

注意： 第 3 章「[Oracle Collaboration Suite Information Storage のインストール](#)」で説明しているとおり、Oracle Collaboration Suite Information Storage のインストール中は CTXSYS パスワードのロックを解除しておく必要があります。

6. 「次へ」をクリックします。「ES_MAIL のパスワード」画面が表示されます。
7. ES_MAIL パスワードを入力し、確認します。

注意： Email Store Information スキーマは、ES_MAIL データベース・ユーザーによって所有されます。

8. 「次へ」をクリックします。「UMADMIN のパスワード」画面が表示されます。

注意： UMADMIN は、アプリケーション・サーバーでの Oracle Email のインストール中に Oracle Internet Directory Server で作成される管理者アカウントです。そのアカウントはディレクトリに固有の Oracle Email エントリを所有します。インストール後、管理者は UMADMIN アカウントを使用して管理ツールにログインし、初期 Oracle Email 管理ユーザーを作成する必要があります。これにより、そのアカウントは他のユーザーにシステムおよびドメインの管理権限を委譲することができます。

9. UMADMIN パスワードを入力し、確認します。
10. 「次へ」をクリックします。「Unified Messaging ドメインの作成」画面が表示されます。
11. ユーザーの電子メール・アドレスに使用するドメイン名を入力します。

注意： ドメイン名を誤って入力した場合、誤ったドメインが作成されます。このような場合、次のコマンドを実行してドメインを修正します。

```
%ORACLE_HOME%\oes\bin\install_createdomain.bat UM_SYSTEM domain_name
```

12. 「次へ」をクリックします。「構成ツール」画面が表示され、Email Store Information の構成が開始されます。

Email Store Information の構成が完了すると、「インストールの終了」画面が表示されます。

umconfig.bat のログ・ファイルが次のディレクトリに置かれます。

```
%ORACLE_HOME%\oes\log
```

Oracle Collaboration Suite 統合 Web Client のインストール

Oracle Collaboration Suite では、ブラウザ対応コンピュータ用の統合 Web Client が提供されます。基礎となる Oracle9i Application Server を使用して、安全なシングル・サインオン環境を提供します。統合 Web Client は、メッセージ（電子メール、ボイスメール、FAX）、カレンダー、ディレクトリ情報、Oracle Web Conferencing 機能、および Oracle Files に格納されているコンテンツにアクセスするために使用できます。

デフォルトでは、Web Client は Oracle Collaboration Suite のインストールの際、コンポーネントの構成中に自動的に統合されます。インストール中に Web Client の選択を解除する場合は、Web Client のインストーラを実行する必要があります。

Web Client のインストーラでは次のタスクが実行されます。

- Oracle Collaboration Suite ホーム・ページのインストール
- インストールした Oracle Collaboration Suite のコンポーネントに対する Web プロバイダおよびポートレットの追加
- Oracle Collaboration Suite ユーザーに対して Oracle Collaboration Suite ホーム・ページをデフォルトの Web ページとして設定
- カスタマイズされた権限を Oracle Collaboration Suite ホーム・ページのユーザーに付与

新しい Oracle Collaboration Suite コンポーネントをインストールする場合は、Web Client のインストーラを実行して、Oracle Collaboration Suite ホーム・ページでコンポーネントを使用できるようにすることができます。Web Client のインストーラは次の Oracle Collaboration Suite コンポーネントに対してのみ使用できます。

- Oracle Calendar
- Oracle Email
- Oracle Files
- Oracle Web Conferencing
- Oracle9iAS Wireless
- Oracle Ultra Search

次のいずれかの方法で Web Client のインストーラを起動できます。

- Oracle Universal Installer を使用
- コマンドラインを使用

関連資料： 次のアドレスの Oracle9iAS Portal Web サイトにある
Securing Web Providers のドキュメント

<http://portalstudio.oracle.com>

コマンドラインを使用した Web Client のインストーラの起動

Oracle Collaboration Suite をインストールする場合、すべてではなく選択したコンポーネントをインストールすることができます。追加のコンポーネントを後でインストールして、Oracle Collaboration Suite ホーム・ページでコンポーネントを使用できるようにする場合は、コンポーネントの URL を構成し、Web Client のコマンドライン・インストーラを実行する必要があります。

コンポーネントの URL の構成

次のディレクトリにある `webclient.properties` ファイルを変更してコンポーネントの URL を構成します。

```
%ORACLE_HOME%\webclient\classes\oracle\collabsuite\webclient\resources
```

`webclient.properties` には、各 Oracle Collaboration Suite コンポーネントに対するヘルプ・ページの URL、アプリケーションの URL およびプロバイダの URL の 3 つの URL リストが含まれます。インストールするコンポーネントの 3 つの URL リストすべてでトークンをホーム・ページおよびポート番号に置き換えます。

Web Client のコマンドライン・インストーラの実行

Web Client のコマンドライン・インストーラを実行するには、次のコマンドを入力します。

```
%ORACLE_HOME%\webclient\bin\webclient_installer.bat
```

前述のコマンドにより、Oracle Collaboration Suite ホーム・ページの新しいコンポーネントに対するプロバイダおよびポートレットがインストールされます。

Oracle9iAS Portal のスキーマ名、パスワードおよび接続文字列の詳細がわかる場合、次のように Configuration Assistant を起動することもできます。

```
%ORACLE_HOME%\webclient\bin\webclient_installer.bat -s schema -p password -c connect_string
```

次に各変数の意味を示します。

- ***schema***: Oracle9iAS Portal の Oracle データベース・アカウント。
- ***password***: Oracle9iAS Portal アカウント・パスワード。
- ***connect_string***: Oracle9iAS Portal リポジトリがインストールされているデータベース・インスタンスへの接続文字列で、`host_name:port:SID` のように指定されます。

